[illegible]

一本奥書云

以妙法院[illegible]親王[illegible]跡之本令写則校合之

右今撰和歌集以村井敬本書写得一本校正



柳風和歌抄巻第一

春哥

立春乃ちかうをとこのもとにまうでけるに

右衛門督為相

いたづらのそらにまつ雪とかなしかりしかぬらんかなしさを

[見消]

永仁の[illegible]

[illegible]

権中納言為兼卿

[illegible]

海辺霞といへる題

武部[illegible]

嵯峨の院の御時に里みるあま浪たちかへる海の月
なを
春とは雲を霧乃うへ小倉の山の中に　前大納言　道綱

うゑ雲に行てゝ見ゆるなゝ宮にたゝ雲をぬる波とゝ
家に十首の中に竹間雪と

武部卿親王家藤大納言

ふるゝ

袁らの花行乃ゝ雪をまぬ春ある宿ゝ
寓の中より

大江宗秀

芸とまる物ゝ春ゝ出ぬ雪ゝ古巣ゝ

平貞時朝臣

宿雪の後　右兵衛督

宿ゝ行ゝ先皇ゝ行ゝ行ゝ
雪乃ゝ山ゝ雪ゝ

平宣直

檜中納言

ひゝ
人ゝ

武部親王家一条

梅ゝ
新ゝ

當座花薬といふことをよみ侍りける

右衛門督為家

春日野ゝわかなの春の色そともまたしらぬまにかすみたつらむ

従二位 頼業卿

さゝ浪やしかの花その雅にしあれはやまさくらとや見えし白浪

條院乃御時

武部卿のとき

流れ行ことしの花もやまかせにちらしむるかな風の前の心

題をさくらともみゆ侍りけるに

大江貞廣

かすみゆくかたの葉もいまた春ならてしらぬ枝乃にほひなくもかな春柳

夕春雨といふことをよみ侍りける

従二位家隆

空乃色はあをみの柳の糸よりもはるさめにこそ春はへぬれ

権中納言為氏

春雨の露のしつくにあふつゝみさかりなる花の香そする

春月乃心をよみ侍りける

中務卿親王家三河

いく里の霞はけさもをちかたにかすみかゝれる雲乃紅の月影

平親直

ありへけむひとはてなきに散りにつる月の影もかはらぬ

春のうち花中の場一八

藤原宗秀

あく間乃はるさめ花ちるぬ濡るるのゝ草

藤原貞藤

花ゆへ濡るゝ袖の雨の露ぬれぬ

袖義乃こゝ紙とよ作りけ

平宣時朝臣

我乃とゝ心つくしけむさくら花ゝ雨

野をさくらゝ雨おゝ作りけゝと花名所花ち

ゝとゝ

古源つ雅名賀

咲面ゝ花乃ゝ雨ゝ

ゝ雨ゝ花乃ゝ雨ゝ



花明ゝ雨ゝ

貞時朝臣

ゝ雨ゝ

ゝ雨乃ゝ雨ゝ

花のうゝ雨ゝ

ゝ大僧正源忠

ちゝ雨ゝ

武部のゝ

思ゝ雨ゝ

ゝ月法師

ゝ月ゝ

雅中納言

[illegible]

名所花いへる心

[illegible]

池邊花

[illegible]

[illegible]

正二位　宰相中將

藤原施秀

[illegible]



實文朝臣

[illegible]

院百首哥　北中よ

[illegible]

藤原重顯

[illegible]

藤原基秀

[illegible]

[illegible]

武部[illegible]

やとりつる露はおきても衣手の袖は秋乃ゆかりなれ

暮春乃心をよみ侍りける

菅原頼宣女

いつくにもなかりしと思ふ春乃日数やよひの末そ名残なく暮ぬる

夏近乃春の暮る日をおしみて侍りける

平時光

花乃色見えしかたみに日数をかそへつゝ春の名残を

三月盡に藤乃花をよみて

右衛門督為相

暮残る春は藤なみにのこりめく池の八重まて松にかゝる

# 柳風和歌抄巻第二

## 夏歌

首夏乃こゝろをよみ侍りける

権中納言為兼卿

春ちりし花をおくりし山の朝くもり雲もかゝるを夏ハなしりき

卯月侍りけるとき

平時高

わすれくさ咲く遠里のむら山端よりさしのほる月を待つる

侍従為守女

人はまたきかさる程の郭公こゑ待かねつと我やかたらむ

藤原頼氏

鳴く蛍の声をたえてもむかしこそ文やかたらめ

中務卿親王

この頃のいつるかたを見すとも月の入かたの里は霞めぬ郷の外

大江貞廣

たえす宿にすむ人なからましかは今の一夜

権中納言為兼

月も菊もまつ宇治の郷の山の端の月もさかの空

暁月法師

まつ人もなくてとはなき一筋にいつもたのむ行つくる

すみすてし宿の中に森の時雨といふ



この代

前大僧正　源忠

秋さえてうつろひぬるか花そ初めなりけり

おもひしあかつきを

右兵衛督為相卿

まてしはしわかねさめせぬ人もなしつれなき夜半の暁

貞時朝臣母の慕ふ俤その行か菖蒲

式部卿親王家藤大納言

たそかれの人めもやすくいつしかのあやめに人かな

おもかけの俤ふるき

貞時朝臣

この代をすてゝのちもなほあやめくさおもひくさのうき世の池

院百首の中に夏月

みなと河なほ上を早くせかるるかな夏の法

五月雨の日とりくらしてかるる

生乃法師雲のうへの日やもいつる間をさへぬれぬ

夏ぬぎてのちの小

寂惠法師

まつ雪とみるうらをもかへてぬぎて松まあらはれぬ夏の月

夏衣乃山を

源頼眞

みつ衣ぬぎ捨てくるしき夏乃をもあまりあつかるらむ

尚歌の中に寄りて世俗をよめる

武藤つねなを

いつ雨さはるうき世を忘れ果てもはつ雲ぬぎすてしたるめ

野亭夏草といふ心をよめる

藤原基隆女

夏草のうるの中小

平公雅

夏の日の紀望中に花の乃葉のうへにいち

蓄の所望の人に雲よりぬるとて入日すでに紀望の室に

山家納涼

前大僧正尋弘

夏ぬぎの山乃ゆかりの秋ぬぎ乃人は出ぬるかぬぎ

春風和詩抄巻第三

秋二首

初秋乃風

大江宗秀

あさかぜのすゝしくなれはあきのたつ
いなはのうへにそよくなるらん

権中納言為兼

秋千乃中に

武田親王家藤大納言

さらぬ秋のたもとにすゝしかぜ
袖のつゆ

後京極摂政

月

侍従為守女

さやけさはあらそはしかは秋の月
なをいとはるゝ雲のかなしさ

平宗兼

さらぬ秋の夕暮なれとやとりの声
なをいとはるゝ雲のかなしさ

権中納言為兼卿

風

藤原政連

なをいとはるゝ雲のかなしさ
なをいとはるゝ雲のかなしさ

秋哥乃中に

金判盛久

[illegible]

題をさぐりてあしの山のはに草花露

藤原長宗

露ちりぬるなりひさぬ風ちるすゑ咲ぬるさ庭の萩ゆら

太宰帥[illegible]相公家に奇合し侍りける月

曉月法師

ちぬのうらに海ちる紅葉ちるとのみ月

宣時朝臣

やとる数へさ露ちるをとをとの月ゆるしの人秋間

權中納言[illegible]

月に[illegible]秋の月くもりなくあかしの浦に我さへぬれぬ袖ぬれぬ

院百首哥[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲間月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原宣顕

吹きて来のまをこそすれ秋の夜のあらぬ月をば
中務の宮 為尊家より千合し侍りける海辺月と
いへる心をよめる歌
藤原頼氏

むくつけき秋をいとはぬ海人の袖やとふ月をば
光の後月をこそよめ
寂蓮法師

おいぬるをこそむつかしけれと思ひなれぬるをつゆ
ばかりなれとこそいへ
藤原基隆女

うれをとこそいへ
くもの月歌をいかなる海辺にか
ら出でしあけぼのの海辺にか
秋月絵をこそよめ
為実朝臣

法の人けぶりたちのぼりぬるを思ひ出でぬ雲の上の月
檀中納言為忠家

いとおもしろく人ぬきとおもひ出でぬる秋の月
お歌の後月ぬ千社中より
貞時朝臣

ふるさとの袖とをいかにかなしかりけるや秋の月
世代のうきとく後あり

曉月

住まひくらしかねてとはぬ人をとゝはぬよりはなほうらめしき
人くあるものなれはこそ乃あきの
乃月と月はたゝとしらるゝ人まつ里の
はなとはたゝとけるとゝ井乃こゝろのしらるゝか

右藤つ雅 為相卿

あけぬなり曉ちかき月ゝすゝくれやよ入つる人なしたゝや
家しに寄るこゝ侍りとゝ侍るか附曉雨といふことを

貞時朝臣

空まてあかしたゝ乃ゝてたゝ明の月のあかしとゝあはとゝ共秋さう

物鳥越嶺といふこゝ

式部少輔

なつかしとゝ須とゝ共たゝとゝ共れくゝかとゝ小紀四郎とゝ為の志

藤原成房

雨とゝ共ふるゝ乃ゝたゝふきとゝ共たゝとゝ共ふるゝ義武

平時富

里ちかきとゝ共へなるゝ山やとゝ麻乃秋さゝとゝ共れの山

為親法師

おゝ紀とゝの緑乃さゝ雨やなく鹿のゝゝ乃鳴とゝ共ふるゝ思ひ物乃

藤原行貞

山かせはさそひぬるよはまきのはすゑの濤ちかくあかるゝもまつの秋

右衛門督為相

あらしにも夜寒のかよひし山里はきそふるともしらす衣かな

中務卿親王家参河

麻の衣いくよ源をしらさらむ花の袖光秋の夜ことにうつ

擣衣の心を

平久時

さほ川の月を秋のみなもとにして衣の袖やつゆをおきかけて衣うつらん

藤原因経顕

里とほき浅茅かすゑのはつかりのなく夜の月にころもうつなり

宗恵法師





ふくるよの風さむけき月影に衣うつなりちかきあたりの里

秋のさかり井中に

前中納言俊光卿

しくれせぬ日もなき山の秋の霧の深さよ

前大僧正源恵もみちのちらぬ先に小野の杜の手合に

古寺紅葉

右兵衛督為相

しくれ行木々の清よ吉野の山入あひのかねに色そ見えゆく

藤原宗秀

暮秋乃心を

行く秋もいまはをしむ心こそたえぬかたきとよはるかな

権中納言為兼卿

来紅葉もちらし秋の雨よなかなかすむもかなしかるらん

柳風和哥抄第四

冬詠

家小雪降る時雨と降りかはるかと見てしぐるる

右兵督為相卿

さえわたる

寶文朝臣

雪ふる里と思ふなかの夕ぐれ

山ぶかき雲間の雪の消ぬるは

大中臣定忠

春しるしたれ柳ぞ

月前歌

水鳥の

ちぎりをかけし歌の浦の月

中道かねなり

いにしへの

内裏百首文治

権中納言為家

きりのかけ

庭雪

右兵督為相卿

鶴の

百年の

藤原定顕

世乃春ヲ知ルカナヒノクレヲ解テ玉ノ水ハ流ルヽ

冬春のさかひを　平久時

むとせ経ぬ春の枕ヲ結ぶ神ぞ見ぬなら曙乃春ハ

あはけるを海ヲ乃ぶ人ぞ見ぬ　雅孝朝臣

山初雪　宣時朝臣

ふるゝ時ハ降ぞ初ぬ雪ハ山乃ゆく末ハ人乃初ゆく

初雪乃ふるとハ知ぬ人ぞ見ぬ

ぬるとぬへとをひのくるとを知ぬ　太宰帥　為相卿

[illegible]



武部ノ乃ぶ

雪哥の中に　大江家秀

[illegible]

[illegible]　浪之位　為嘉

[illegible]

[illegible]　權中納言為忠

雪乃春ハ[illegible]

雪乃春と[illegible]

武ふの[illegible]

[illegible]

源重之

[illegible]

藤為時朝臣

歳暮梅花を見て

平忠盛

雪ふりし春をまちつる梅の花散ぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]



柳風和雨柳条

慈鎮

[illegible]

為実卿妻

[illegible]

中務の親王

[illegible]

雅孝朝臣

度會行忠

袖もぬれぬ法のうちなる法の山ぶかき紅葉のいろ

思ふ心ゆえ　　藤原範行

法くむ身になるぬれぬ袖のいろ　思ふ心ゆえ　　藤原範行

初尋縁覚と山ぶかき法の山ぶかき

藤原頼資

ふかき山ぶかき法の山ぶかき

嵯峨山慈

あふぎ山ぶかき法の山ぶかき

従二位教基

思ひ入る山ぶかき法の山ぶかき

大中臣定忠朝臣

思ひ入る山ぶかき法の山ぶかき





不逢恋の心　　平顕実

明暮ぬれぬ人もなきぬれぬ袖　　暁月法師

あふことをいとはぬ人もなきぬれぬ袖

あふことをいとはぬ命をなげぬ世ぬれぬ袖

藤原頼氏

あふことをいとはぬ人もなきぬれぬ袖

あふことをいとはぬ人なきぬれぬ袖

源教貞

我をぬれぬ袖ぬれぬ人なきぬれぬ袖

拾遺乃心　　荒木田氏之

生れぬれぬ袖ぬれぬ人なきぬれぬ袖

恋ゆへの中に　古来歌枕

契りをとゝ世れたる今とそのむへゝうつりをとゝ

ゆゝしきなと　明融法師

ゆゝしさ思ひくしてとゝ思ひ思ふ人をあはる月を

待ちつゝ年をとゝ　右の將為成

出ぬまゝあはよなくとゝ心をなくなけゝや年をとゝ

人のうつる物ゆゝ　右の為成

ゆゝ川恋をつゝ月をとゝ　藤原田長興

武部の親王家一条

右御風和歌抄後鈔以御部正集尹部年校合了

内閣文庫

# 羣書類從卷第百五十八

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan